



# 解明進む古代の役所構造

あかい かんが

## ⑤ 史跡赤井官衙遺跡群 (東松島市赤井)



遺跡の詳細な解説動画  
はこちらから！



遺跡の位置図

石巻平野を東西に延びる標高 2 m ほどの微高地上に立地する奈良・平安時代の役所跡です。東松島市教育委員会による発掘調査が昭和 61 年から継続して行われています。

令和 5 年の調査の結果、7 世紀末から 9 世紀初めの格子状に柱が配置された遺跡内で最大規模の総柱の建物跡がみつかりました。

総柱の建物跡は倉庫と考えられ、最大規模の倉庫が倉庫地区とは別な場所でみつかり、周囲には豪族の居宅があることから、この場所の性格が注目されます。



P20の断面写真

柱材

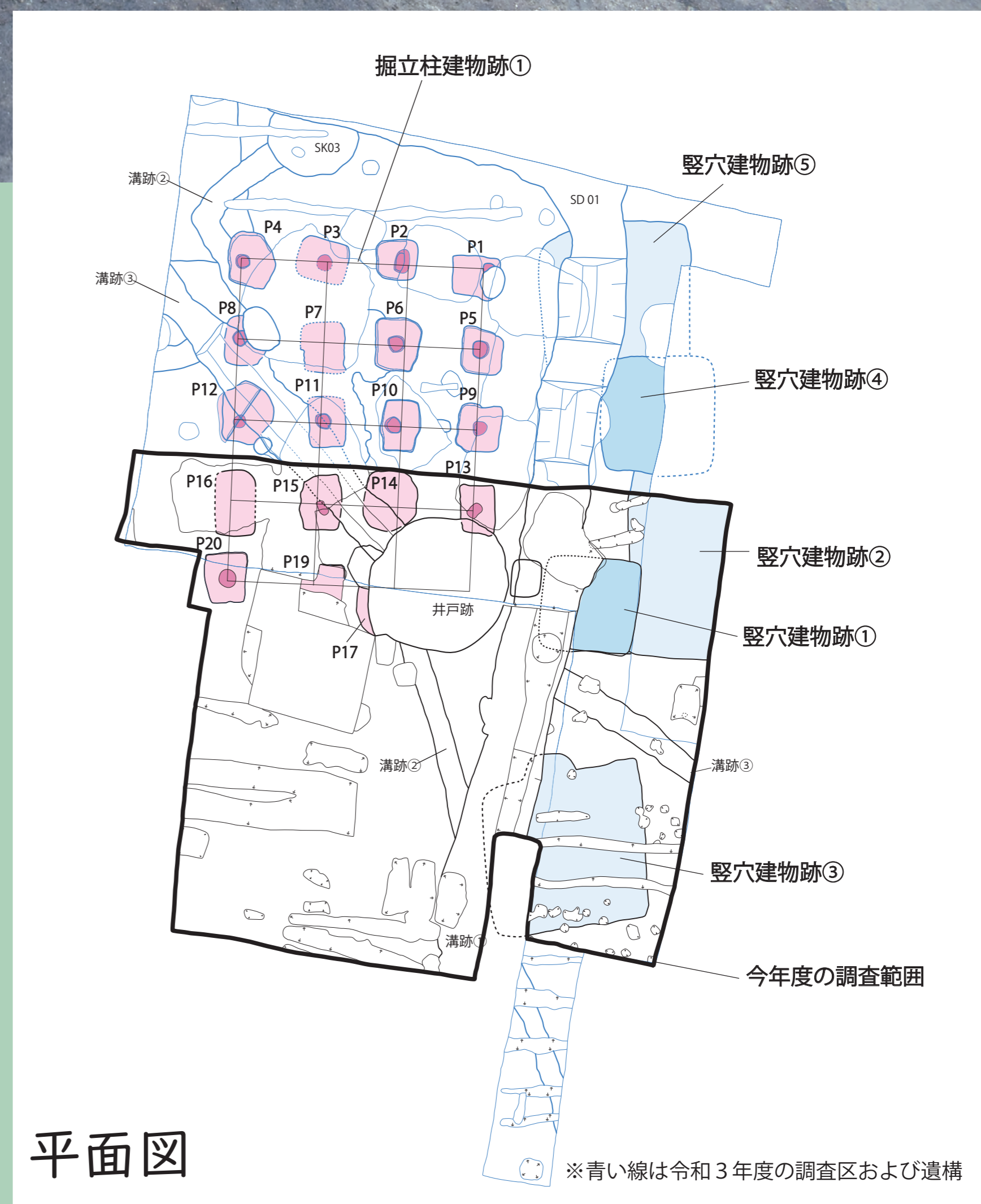
柱を立てるために掘った穴の大きさは、長さ約140cmで、柱の大きさは直径約30cmです。柱材が残っていました。



調査区全景（真上から）

総柱の建物跡を構成する柱と柱の間の数(間)は、4間 × 3間で、規模は南北 8.8m、東西 6.6mです。柱穴は新しい時代の穴などに壊されていました。

過去の発掘調査で見つかった総柱の建物は、大きくても3間×2間のため、今回見つかったものは遺跡内では最大です。



平面図

倉庫の中には、米などが入っていたのかなあ〜。

